

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2374500599 | | |
| 法人名 | 株式会社 ボーベルカンパニー | | |
| 事業所名 | 認知症対応型共同生活介護 グループホームひだまりの家 (やすら樹) | | |
| 所在地 | 愛知県尾張旭市旭ヶ丘町旭ヶ丘5756の2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年 9月28日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年 3月 8日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JiyosvoCd=2374500599-00&PrefCd=23&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 中部評価センター | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F | | |
| 訪問調査日 | 平成24年10月29日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな立地を活かして、花や野菜を育てたり、近所を散歩したりと、季節の移り変わりを肌で感じながら毎日を過ごしていただいています。
また、夏まつりやもちつき、おこしもの作りなどの昔ながらの行事を、近隣のお子さんたちと一緒に楽しんでいただいています。徐々にではありますが、近所の方々にもひだまりの家での行事が認知されてきており、楽しみにして下さっている方もいらっしゃるようです。
ご家族の方々とも、交流の機会を増やしており、運営推進会議や家族会以外にも、ご家族型も参加できる行事を増やし、ご家族同士での交流の機会も増えてきております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流に取り組んだ一年であり、運営推進会議の際には餅つきやおこしもの作り等のイベントを開催して、ホームの取り組みを発信している。地域に向けた取り組みが今後定着し、地域の社会資源との交流に向けた取り組みに発展することを期待したい。
家族アンケートでは、「指摘した事をすぐに改善してくれる。」「ホームに行きやすい環境になった。」との声が上がっている。不安を抱えている家族には、FAXでやりとりするなど、コミュニケーションを図っている。その結果、家族の安心につながっている。家族に向けた配慮が定着すれば、さらに充実した支援につながるであろう。
ホームの今後の活躍を心から応援したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|---|---|--|---|
| 56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 施設の理念「我が家のようにくつろげる、やすらぎのある生活を支援する」を常に意識し、実践できるよう心掛けています。 | 年度初めにホームの目標を作成し、計画をホーム全体で取り組んでいる。今年度、積極的に地域交流に力を注いだ。行事や認知症サポーター養成講座の開催の際には、近隣へ広報して成功を収めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩をしているときの立ち話や、野外清掃への参加など、出来る範囲での地域との関わりを持てるように心がけています。 | 消防署と協力して、AEDの設置について市の認定を受けている。地域でAEDが必要となった際には、ホームのAEDが使用・貸出ができる。 | AEDの説明や救急救命法について、消防署と協力して地域に発信する取り組みを期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 介護福祉士やヘルパーの実習生の受け入れ、中学生の職場体験。行事の地域への開放、認知症サポーター養成講座の開催など、地域への認知症理解への取り組みを行っています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議の形にこだわらず、ご家族や地域の方々に施設の中に入ってきてもらい、利用者と触れ合ってもらうことで、利用者の生活や施設としての取り組みなどを見て感じていただき、意見をいただくようにしています。 | 定期的な運営推進会議が開催されている。ホームの課題について検討したり、介護保険法改正について報告している。また、会議とイベントとを兼ねて行うなど、開催回ごとに工夫している。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 法改正に伴う準備等においても、市役所の担当職員との連絡を密に取ることで、大きな混乱もなくスムーズに移行できた。AED設置施設の登録などで、消防本部との協力関係も徐々に築かれつつある。 | 地域包括支援センターと認知症サポーター養成講座の開催について相談・調整しており、情報交換の機会も多い。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 新入職員も入ってきたため、あらためて身体拘束について考えてもらう機会を設けました。職員の不安よりも、ご利用者にとって本当に安全なのはどのようなケアなのかを理解してもらえたと思います。 | 身体拘束について、職員間で話し合う機会を設けている。職員の認識不足から、言葉で利用者の行動を制限するような場面があった。一部の職員に関しては、スピーチロックの認識が乏しい。 | スピーチロックは、職員主導の価値観から無意識の中で行われることも考えられる。日々の業務改善を視野に入れ、拘束のないケアの必要性を繰り返し指導してほしい。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 今年度は、まだ勉強会などの実施はないが、年度内に実施し、高齢者虐待への意識を高めたいと考えています。(昨年度は10月20日に施設内研修を実施) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者が、尾張東部成年後見センター主催の研修を受講。その内容を、全職員に報告をし、今後このようなケースが出てきた場合に活用できるようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 指定基準・介護報酬の改定に伴う、重要事項や料金の改定など、家族への説明会の開催や文書での説明を行い、ご理解いただいています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会や運営推進会議、各種行事や面会時など、常に意見、要望を表せることが出来るようにしており、頂いた意見を反映させられるようにしています。 | 介護保険改正時には、家族向けに説明会・資料配布を行い、質問等を受け付けている。ホームから自宅に帰った家族が、ファックスで意向や要望を告げ、ホームで検討した事例がある。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 3ヶ月に一度の職員会議や、毎朝の申送りに限らず、常に意見や提案を受け付けている。 | 管理者は、法人からの連絡事項を常時職員に報告している。職員会議の際に、意見提案を受け付けている。個別の事例について職員間で検討し、話し合っている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者の目だけでなく、他の職員や利用者、ご家族などの評判などをもとに評価をし、代表者へ雇用条件の見直しを提案したり、勉強会などの開催、行事の計画を任せするなどやりがいを持てるようにしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部の研修へ参加してもらったり、施設内研修を実施したりするほか、ベテラン職員が個別に指導を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新規開設事業所の内覧会へ参加したり、連絡会への参加、近隣市の情報交換会へ参加したりネットワーク作りを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 状況をよく理解されないまま入居する方も多いため、まず安心して過ごしていただけるように、コミュニケーションを通じて要望などを聞き出し、ケアへつなげるようにしています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 電話での問い合わせの段階から、不安に思われていることや困っていることを伺い、入居前から信頼関係を築いていけるような対応を心掛けています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前の状況をよく伺い、入居後にどのようなケアが必要なかをよく話し合い、ご家族の協力もお願いしながら対応しています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常的に自立を促すケアを行い、買い物・外出など本人の希望に添えるよう対応しています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会に来るきっかけとなるよう、ご家族も参加できるような行事を行ったり、ひだまりだよりや個別の手紙などで現況報告を行ったり、ケア方針について相談したりと、関係づくりを行っています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | お友達の訪問や電話・手紙での連絡をサポートしたりして、関係が途切れないように支援しています。 | 長期休暇の際には、家族からの依頼を受けて、利用者を自宅まで送迎している。また、家族が定期的に太極拳のボランティアとして来訪しており、利用者の顔馴染みとなっている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士のトラブルはたまにあるが、そのケースに合わせた対応を行っています。また、出来るだけユニット間での交流も行っており、すべての利用者同士が交流できるように心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後に、別のご身内の方の事で相談に来られたり、ご利用いただいたりすることもあり、こちらから積極的に関わりをつなぐことはありませんが、良好な関係を続けているご家族もあります。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 希望を表現できる方には、出来る限り希望をかなえています。ご自分では表現できない方にも、ご家族の意見などを参考に、できるだけ本人本位となるようなケアを行うように努めています。 | 希望や意向などは、利用者から直接聞くよう取り組んでいる。初回アセスメントは、家族が聞き取りに協力している。しかしながら、若い頃の記憶をたどった事例は乏しい。 | 職員一人ひとりが個々に把握するのではなく、記録に残すことで、職員全員に周知する仕組みづくりを期待したい。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族からの話しや、ご本人との会話の中から、生活背景を把握し、ケアに反映できることは反映させるように努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 現在の状態に合わせて、食事時間の調整や嗜好に合わせたおやつ等の提供、レクなどの活動をその日の体調に合わせ、できることできないことを把握して支援を行っています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画の変更まで行かない比較的軽微なケア方法の変更なども、ユニットスタッフで話し合いをして、ご家族の意見も取り入れながら考えています。 | 介護目標を徐々に具体化しつつある。モニタリングの際に、個別支援を振り返り、評価を数値化している。しかし、介護記録に評価の欄があるものの、活用できていない。 | モニタリングの際に目標をさらに分析し、支援の方法を具体的に記入すれば、本人本位の介護計画へと近づくであろう。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録表の書式を変更し、よりその方の変化や状況がわかるようにし、ケアや計画の見直しに役立てています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご利用者及びご家族にとって不公平が生じないように配慮しながら、病院受診や買物への送迎等の外出支援を行ったりし、ご要望に対して出来る限りの対応を行っています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 出張美容や、訪問マッサージなどを利用していただいたり、踊りの会の方々をお招きして踊りを披露していただいたり、地域のサービスなどを利用する機会を持っています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 提携医以外に、かかりつけのクリニックや眼科があるご利用者様には、受診の付添いや送迎を実施しており、情報提供を行っている。 | ホームのかかりつけ医の往診を利用している。医療情報は面会時や電話を使って、看護師及び管理者が家族に報告している。訪問看護を利用して、医療が必要であっても入居可能な事例がある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 正職員の看護師がいるため、医療的な面では看護師を中心に職員全体で支援を行っています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 提携医に限らず、他の総合病院に入院の際にも、サマリーや口頭にて入院前の情報の提供を行っています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 6月の運営推進会議時に、事業所の重度化や終末期の方針を説明し、終末の際の要望確認書を提出していただくこととし、提出の際に個別にお話しをさせていただいた。 | ホームの方針と家族の希望を入居前に話しあって、家族が安心できるように支援している。運営推進会議で家族へ改めて説明し、終末期の要望を集約している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の対応について全員が対応できるように、勉強会を看護師から全職員へ向けて実施した。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練を実施し、そのうち1回は夜間想定で実施。災害時の連絡方法について、家族へ説明をし、災害用伝言ダイヤルの体験利用を行った。 | 家族へ災害伝言ダイヤルの説明をしている。さらに、ホームの連絡先や避難先を記入した避難カードを作成し、家族へ配布している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 新入職員の中には、トイレ介助時にドアを開け放している者もいたが、プライバシーへの配慮を怠らないよう指導をしたり、言葉遣いなどでも気を付けるよう、職員同士で注意しあえるよう心掛けている。 | 若い職員や男性職員の入浴介助を嫌がる利用者には、職員が交代して支援している。入室を嫌がりシーツ交換も拒む利用者には、一緒にシーツ交換をして、安心できるように配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご自分で表現できる方には、可能な限り希望に応えられるようにしており、ご自分で表現が出来ない方にも、声かけを怠らず、ご家族の意見なども聞き、対応をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 業務中心ではなく、ご利用者中心でケアを行うよう、業務マニュアルの見直しを行い、職員の意識の向上を促し、ご利用者のペースでのケアを実施している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 出張理美容を利用していただいたり、買い物へ出掛けの際に、一緒に服を選んで購入したりしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | できるだけご自分で、ご自分のペースで食事できるように支援しています。通常、準備や片付けは職員が行っているが、お好み焼き、手巻き寿司等の行事の際に、利用者と家族・職員と一緒に行動する機会も設けている。 | 食材サービスを利用して、職員が利用者の体調に配慮して食事を提供している。具合が悪い時には、おかゆに変更するなどの配慮がある。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | お一人お一人が食べやすい様に形態や量を考えており、体調によって食事量や水分摂取量が少なくなっている場合には、医師に相談し補助飲料などで補っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを行っている。口腔内の状態が良くない場合には、提携の歯科医院によるケアも実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 自立に向けた支援と言うよりは、自立している方には清潔保持の為の声かけ。介助でトイレでの排泄が出来る方には、その維持など、現状での適切なケアを考えている。 | 自立している利用者が失禁した際には、プライドを傷つけないように声をかけている。オムツ・パッドを無理強いしないように支援しており、排泄チェック表で確認しながらトイレ誘導している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日、排便のチェックを行い、便秘の原因を考えて、便秘薬も使用しつつ、水分を多めに摂ってもらったり、腹部マッサージを行ったりして、できるだけ自然な形で排便ができるように支援している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴日や時間は決まっているが、その中で希望に応じて順番を決めている。また、その時に入れなくても、別の日・時間に入ってもらうこともしている。 | 入浴日を定めて定期的に入浴している。入浴日には、職員配置を考慮して支援している。午後からの入浴時間に変更して、安全な入浴支援に向けて取り組んでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご本人の好きな時に休んでいただいている。また、体調やその時の様子で休息が必要と感じれば休んでいただいている。朝も声かけは行うが、本人が起きたい時に起きていただいている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お一人お一人の薬の情報はファイルしており、スタッフはいつでも確認することが出来る。また、薬が変わった場合には、看護師が連絡ノートに記載し、全職員がわかるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 花を育てたり、洗濯物をたたんだり、やりたいことを職員と一緒にやっていただいている。コーヒーが好きな方には飲みたい時に飲んでいただいている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩や買い物、喫茶店など特別な行事ではなくても外出の機会を作っている。また、ご自宅への送迎なども行っている。 | 回想法記念館に出かけて、利用者と昔の思い出話をしている。また、家族と出かける際には介護タクシーの手配をして、個別のニーズに対応している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族とも相談の上、ご自分で金銭を管理されている方もいます。また、財布お預かりして、外出時などにご本人で支払いをされるケースもあります。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご家族によっては、疎遠となっている親類に連絡を取って欲しくないと思っている方もいるため、個別に対応を行っています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花を飾ったり、季節感のある掲示物を一緒に作り飾ったりして、工夫をしています。 | 共有のスペースには季節感を出すために、季節の花々を活けている。居間のスペースを広く取り、車いすでも自由に移動できるようにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | お一人お一人のお好きな場所で過ごしていただけるように配慮しています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族が持ってこられた草花を飾ったり、なじみの品を置いていただいたりと、その方が落ち着くような居室にさせていただいています。 | 居室の入り口には、昔ながらの木の表札がかかっている。居室には家族の写真を飾っている。しかしながら、室内に物がなく殺風景で落ち着く空間とは程遠い居室もあった。 | 問題行動を避けることはできたとしても、精神安定につながる支援とは言い難い。家族や利用者の個人的な背景もあるが、安眠等ができる環境配慮が必要であろう。 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレ、浴室には手すり等を設置し、できるだけご自分の力を活かせるようにしています。 | | |

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------------|------------|-------------|
| 事業所番号 | 2374500599 | | |
| 法人名 | 株式会社 ボーベルカンパニー | | |
| 事業所名 | 認知症対応型共同生活介護 グループホームひだまりの家(くつろ樹) | | |
| 所在地 | 愛知県尾張旭市旭ヶ丘町旭ヶ丘5756の2 | | |
| 自己評価作成日 | 平成24年 9月28日 | 評価結果市町村受理日 | 平成25年 3月 8日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな立地を活かして、花や野菜を育てたり、近所を散歩したりと、季節の移り変わりを肌で感じながら毎日を過ごしていただいています。
 また、夏まつりやもちつき、おこしの作りなどの昔ながらの行事を、近隣のお子さんたちと一緒に楽しんでいただいています。徐々にはありますが、近所の方々にもひだまりの家での行事が認知されてきており、楽しみにして下さっている方もいらっしゃるようです。
 ご家族の方々とも、交流の機会を増やしており、運営推進会議や家族会以外にも、ご家族型も参加できる行事を増やし、ご家族同士での交流の機会も増えてきております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2374500599-00&PrefCd=23&VersionCd=022 |
|----------|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| |
|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 中部評価センター | | |
| 所在地 | 愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F | | |
| 訪問調査日 | 平成24年10月29日 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|---|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 施設の理念「我が家のようにくつろげる、やすらぎのある生活を支援する」を常に意識し、実践できるよう心掛けています。 | | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩をしているときの立ち話や、野外清掃への参加など、出来る範囲での地域との関わりを持てるように心がけています。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 介護福祉士やヘルパーの実習生の受け入れ、中学生の職場体験。行事の地域への開放、認知症サポーター養成講座の開催など、地域への認知症理解への取り組みを行っています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 会議の形にこだわらず、ご家族や地域の方々に施設の中に入ってきてもらい、利用者と触れ合ってもらうことで、利用者の生活や施設としての取り組みなどを見て感じていただき、意見をいただくようにしています。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 法改正に伴う準備等においても、市役所の担当職員との連絡を密に取ることで、大きな混乱もなくスムーズに移行できた。AED設置施設の登録などで、消防本部との協力関係も徐々に築かれつつある。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 新入職員も入ってきたため、あらためて身体拘束について考えてもらう機会を設けました。職員の不安よりも、ご利用者にとって本当に安全なのはどのようなケアなのかを理解してもらえたと思います。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 今年度は、まだ勉強会などの実施はないが、年度内に実施し、高齢者虐待への意識を高めたいと考えています。(昨年度は10月20日に施設内研修を実施) | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者が、尾張東部成年後見センター主催の研修を受講。その内容を、全職員に報告をし、今後このようなケースが出てきた場合に活用できるようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 指定基準・介護報酬の改定に伴う、重要事項や料金の改定など、家族への説明会の開催や文書での説明を行い、ご理解いただいています。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会や運営推進会議、各種行事や面会時など、常に意見、要望を表せることが出来るようにしており、頂いた意見を反映させれるようにしています。 | | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 3ヶ月に一度の職員会議や、毎朝の申し送りに限らず、常に意見や提案を受け付けている。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 管理者の目だけでなく、他の職員やご利用者、ご家族などの評判などをもとに評価をし、代表者へ雇用条件の見直しを提案したり、勉強会などの開催、行事の計画を任せするなどやりがいを持てるようにしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部の研修へ参加してもらったり、施設内研修を実施したりするほか、ベテラン職員が個別に指導を行っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 新規開設事業所の内覧会へ参加したり、連絡会への参加、近隣市の情報交換会へ参加したりネットワーク作りを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 状況をよく理解されないまま入居する方も多いため、まず安心して過ごしていただけるように、コミュニケーションを通じて要望などを聞き出し、ケアへつなげるようにしています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 電話での問い合わせの段階から、不安に思われていることや困っていることを伺い、入居前から信頼関係を築いていけるような対応を心掛けています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居前の状況をよく伺い、入居後にどのようなケアが必要なのかをよく話し合い、ご家族の協力もお願いしながら対応しています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 日常的に自立を促すケアを行い、利用者の意向に沿って支援し、買い物・外出など本人の希望に添えるよう対応しています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会に来るきっかけとなるよう、ご家族も参加できるような行事を行ったり、ひだまりだよりや個別の手紙などで現況報告を行ったり、ケア方針について相談したりと、関係づくりを行っています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | なじみの美容院へ通っていただいたり、お友達の訪問や電話・手紙での連絡をサポートしたりして、関係が途切れないように支援しています。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士のトラブルはたまにあるが、個々のケースに合わせた対応を行っています。また、出来るだけユニット間での交流も行っており、すべての利用者同士が交流できるように心がけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後に、別のご身内の方の事で相談に来られたり、ご利用いただいたりすることもあり、こちらから積極的に関わりをつなぐことはありませんが、良好な関係を続けているご家族もあります。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 希望を表現できる方には、出来る限り希望をかなえています。ご自分から積極的に表現されない方にも、ご家族の意見などを参考に、できるだけ本人本位となるようなケアを行うように努めています。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族からの話しや、ご本人との会話の中から、生活背景を把握し、ケアに反映できることは反映させるように努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 現在の状態に合わせて、食事時間の調整や嗜好に合わせたおやつ等の提供、レクなどの活動をその日の体調に合わせ、できることできないことを把握して支援を行っています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 介護計画の変更まで行かない比較的軽微なケア方法の変更なども、ユニットスタッフで話し合いをして、ご家族の意見も取り入れながら考えています。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録表の書式を変更し、よりその方の変化や状況がわかるようにし、ケアや計画の見直しに役立てています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご利用者及びご家族にとって不公平が生じないように配慮しながら、病院受診や買物への送迎等の外出支援を行ったりし、ご要望に対して出来る限りの対応を行っています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 出張美容や、訪問マッサージなどを利用していただいたり、踊りの会の方々をお招きして踊りを披露していただいたり、地域のサービスなどを利用する機会を持っています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 提携医以外に、かかりつけのクリニックや眼科があるご利用者様には、受診の付添いや送迎を実施しており、情報提供を行っている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 正職員の看護師がいるため、医療的な面では看護師を中心に職員全体で支援を行っています。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 提携医に限らず、他の総合病院に入院の際にも、サマリーや口頭にて入院前の情報の提供を行っています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 6月の運営推進会議時に、事業所の重度化や終末期の方針を説明し、終末の際の要望確認書を提出していただくこととし、提出の際に個別にお話しをさせていただいた。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変時の対応について全員が対応できるように、勉強会を看護師から全職員へ向けて実施した。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の避難訓練を実施し、そのうち1回は夜間想定で実施。災害時の連絡方法について、家族へ説明をし、災害用伝言ダイヤルの体験利用を行った。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 新入職員の中には、トイレ介助時にドアを開け放している者もいたが、プライバシーへの配慮を怠らないよう指導をしたり、言葉遣いなどでも気を付けるよう、職員同士で注意しあえるよう心掛けている。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご自分で表現できる方には、可能な限り希望に応えられるようにしており、ご自分で表現が出来ない方にも、声かけを怠らず、ご家族の意見なども聞き、対応をしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 業務中心ではなく、ご利用者中心でケアを行うよう、業務マニュアルの見直しを行い、職員の意識の向上を促し、ご利用者のペースでのケアを実施している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | お気に入りの化粧品の注文を、職員が手伝ったり、なじみの美容院へ通えるよう支援を行っている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | できるだけご自分で、ご自分のペースで食事できるように支援しています。通常、準備や片付けは職員が行っているが、お好み焼き、手巻き寿司等の行事の際に、利用者と家族・職員と一緒に行動する機会も設けている。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | お一人お一人が食べやすい様に形態や量を考えており、体調によって食事量や水分摂取量が少なくなっている場合には、医師に相談し補助飲料などで補っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケアを行っている。口腔内の状態が良くない場合には、提携の歯科医院によるケアも実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 自立に向けた支援と言うよりは、自立している方には清潔保持の為の声かけ。介助でトイレでの排泄が出来ている方には、その維持など、現状での適切なケアを考えている。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日、排便のチェックを行い、便秘の原因を考えて、便秘薬も使用しつつ、水分を多めに摂ってもらったり、腹部マッサージを行ったりして、できるだけ自然な形で排便ができるように支援している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴日や時間は決まっているが、その中で希望に応じて順番を決めている。また、その時に入れなくても、別の日・時間に入ってもらうこともしている。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | ご本人の好きな時に休んでいただいている。また、体調やその時の様子で休息が必要と感じれば休んでいただいている。朝も声かけは行うが、本人が起きたい時に起きていただいている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | お一人お一人の薬の情報はファイルしており、スタッフはいつでも確認することが出来る。また、薬が変わった場合には、看護師が連絡ノートに記載し、全職員がわかるようにしている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 畑仕事や、洗濯物たたみなど、やりたいことを職員と一緒にやっけていただいている。コーヒーが好きな方には飲みたい時に飲んでいただいている。散歩や買い物へも個別に支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩や買い物、喫茶店など特別な行事ではなくても外出の機会を作っている。また、ご自宅への送迎や、介護タクシーの手配なども行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | ご家族とも相談の上、ご自分で金銭を管理されている方もいます。また、財布お預かりして、外出時などにご本人で支払いをされるケースもあります。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご自身の携帯電話で自由に通話されてる方もいます。ご家族の希望もあるため、利用者からの電話は個別に対応しています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の花を飾ったり、季節感のある掲示物を一緒に作り飾ったりして、工夫をしています。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | お一人お一人のお好きな場所で過ごしていただけるように配慮しています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族が持ってこられた草花やインテリアを飾ったり、なじみの品を置いていただいたりと、その方が落ち着くような居室にしています。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | トイレ、浴室には手すり等を設置し、できるだけご自分の力を活かせるようにしています。 | | |

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|------|---------------------------------------|---|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 6 | 身体拘束、なかでもスピーチロックについての認識が乏しい職員が見受けられる。 | 利用者の行動を抑制しないケアの実践 | 介護職員主導により、勉強会の開催。(虐待に関するチェックシートを使用し、職員間の認識の違いを明白にし、意識の統一を図る) | 6ヶ月 |
| 2 | 23 | 利用者の思いや希望をケアに反映しきれていない。 | 利用者の過去の生活を知ること、ひだまりの家での生活をより豊かなものとなるようなケアを行えるようにする。 | 利用者の若い頃や家庭で生活されていた頃の写真を持ってきていただく。また、ご家族に昔の様子についてのアンケートを実施する。介護記録に、その日の関わりの中で印象に残った事柄を記入する項目を加える。 | 6ヶ月 |
| 3 | | | | | ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。